


## ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 准教授</p> <p>竹中麻美子 (たけなか まみこ)</p> <p>TAKENAKA Mamiko</p>
所属	保 育 科
学位	学士 (教養) (国際基督教大学)
資格・免許	—
学歴・職歴	<p>&lt;学歴&gt;</p> <p>国際基督教大学教養学部語学科 卒業 (学士 (教養))</p> <p>ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ (Goldsmiths, University of London)</p> <p>ドラマ・アンド・シアターアーツ専攻</p> <p>ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ・カレッジ (Royal Holloway, University of London)</p> <p>ドラマ、シアター・アンド・メディア・アーツ専攻</p> <p>&lt;職歴&gt;</p> <p>1996年12月 株式会社エフエム甲府 制作部 (2001年3月まで)</p> <p>2002年 4月 山梨学院短期大学 兼任講師 (2007年3月まで)</p> <p>2004年 9月 山梨学院短期大学 事務局課員 (2009年3月まで)</p> <p>2009年 4月 山梨学院短期大学保育科 専任講師 (2021年3月まで)</p> <p>2021年 4月 山梨学院短期大学保育科 准教授 (現在に至る)</p> <p>2023年 4月 山梨学院短期大学 学生部長 (2024年3月まで)</p>
担当科目	<p>演劇入門 異文化コミュニケーション 外国語 (教職)</p> <p>英語A 英語B 基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ</p> <p>社会人基礎力育成講座Ⅰ・Ⅱ</p>
専門分野	舞台芸術 英語コミュニケーション
現在の研究テーマ	異文化コミュニケーションへの興味を深め、外国語学習の意欲を高めるために役立つ学習素材の検討と授業展開の工夫
競争的資金等の研究課題	—
所属学会	<p>日本保育学会 日本保育者養成教育学会 日本英語圏児童文学会</p> <p>日本シェイクスピア協会</p>
メッセージ	<p>学生生活は、自分のやりたい研究、サークル活動、いろいろなことに思いっきりチャレンジできる時です。失敗を恐れず、自分自身の可能性をたくさん見つけてください。皆さんのさまざまな挑戦を心からサポートし、応援しています。</p>

教育	
2025年4月～2026年3月	
教育方針	様々な価値観、文化的背景を持つ人とのかかわりの中で成長し、グローバル社会で生き抜く力を持つ若者の養成
授業	<p>授業の工夫</p> <p>&lt;演劇入門&gt;</p> <p>演劇作品の鑑賞や文学作品の読解・発表を通して、表現力の向上を目指す。ボイストレーニングや即興演技のレッスンも行い、グループに分かれて作品を実際に演じ、鑑賞し合うことで、作品の時代背景や登場人物の性格、感情などをより深く理解できるよう工夫している。</p> <p>教職員や学生を対象とした発表会を企画し、小道具、衣装、ポスター製作なども学生が手掛け、実演、好評を得た。</p> <p>&lt;異文化コミュニケーション&gt;</p> <p>国際交流員や海外出身の職員、海外在住経験のある方をゲストスピーカーとして授業に招いている。様々な国の文化を紹介していただくなかで、学生と直接話をする機会を設け、それぞれの興味・関心を持ったテーマについてさらに詳しく学べるような構成で授業を行った。学生からも、「異文化について沢山新しいことを学べた。多様性が広がってく日本に大切な知識があり楽しく学べた。」とのコメントがあった。</p> <p>また、学生が国際交流イベントに積極的に参加し、異文化に実際に触れることで得られる学びを大切にしている。学生からは、「実際にイベントに参加できたことや自分から積極的にコミュニケーションをするなど実際に行動できたので満足できる授業だった。」とのコメントがあり、実際に留学生に折り紙を教えながら交流した学生は、「折り紙のことをもしかしたら何も知らない人に教えなければならない。教えることは難しい。…物を使えばお互い理解することがあると思う。それを少しずつ理解して外国人とも話し合っていきたいと講義でそのこと学び考えた。」と、体験からの学びをコメントした。</p> <p>&lt;外国語(教職)&gt;</p> <p>英語を使ってコミュニケーションをとる機会を増やすため、プレゼンテーションや参加型の学びの機会を多く取り入れた。英語絵本の朗読や早口言葉、手遊び、歌遊びなど、楽しみながら英語に触れる教材を多く活用した。グループごとにひとつの教材と向き合い、発表を通して理解を深める活動を行った。クラスメートの発表を見ることで英語でのやりとりのコツをつかみ、自身のプレゼンテーションに意欲的に取り組む学生の姿が見られた。</p>

教育（つづき）	
2025年4月～2026年3月（つづき）	
教育方針	様々な価値観、文化的背景を持つ人とのかかわりの中で成長し、グローバル社会で生き抜く力を持つ若者の養成
授業（つづき）	<p>授業の工夫（つづき）</p> <p>&lt;英語A&gt; 英語が苦手、英語は嫌い、という意識を変革することに力を入れている。内容を知りたい、使って楽しい、相手に伝わって面白い、という経験を積むことで、苦手意識を克服し、表現手段としての英語力をつけることを目指している。英語圏のヒットソングをテキストとして活用することで、等身大の若者の感情を表現する語彙や文化的な違いをより分かりやすく理解できるよう工夫した。</p> <p>&lt;英語B&gt; 食物栄養科、保育科、それぞれの学生の興味関心を高めるような教材を取り入れている。それぞれの学生の専門分野について今日的な話題にあふれた素材を新聞、雑誌、メディア等から取り入れ、活用している。食育をテーマにしたドキュメンタリー番組を教材として取り上げた際には、日本との違いに驚く学生が多く、英語を通して文化の違いについて考えるきっかけとなった。学生からは、「食についてのテーマがとてもよかった。」や「ヨーロッパの給食の状況を知れて面白かった。」などのコメントがあった。</p>
	<p>授業改善のための取組</p> <p>WebClassを活用した授業展開を工夫している。毎回の授業の振り返りを学生自身が入力し、総括の授業の際に一枚の用紙に印刷し、自身に身に付いた力を可視化する（OPP）資料作成にも取り組んだ。総括授業では、全回分を通して読むことで、学生自身が授業のねらいを理解し、どこまで自身の学力が身に付いたかを実感することができた。</p> <p>外国語の授業では、この部分を英語で記述する取り組みも行い、自身の考えを英語で表現することに挑戦する学生もいた。</p> <p>さらに、教養科目の授業では、優れた考察の見られる記述を発表し、総括レポートの記述方法について学ぶ機会を設けた。</p> <p>また、WebClassのアンケート機能を利用し、問題演習の際、学生の選択肢をグラフで提示、リアルタイムで変化する回答を速報することで学生が楽しみながら学びを深める取り組みを行っている。自分と同じように間違った回答をする学生がいること、そして誤りに気付いた時点ですぐに修正をすることで学習効果の向上を図ることができた。</p> <p>留学生や他学部の学生と交流する場が少なく、英語を話す機会や友達作りの機会のない学生に対し、学内外で実施されるイベントや交流会への積極的な参加を促した。</p>

教育 (つづき)		
2025 年 4 月～2026 年 3 月 (つづき)		
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	<p>学生自身が自ら課題を見つけ、探求したいと考えるテーマで研究を進められるよう支援している。学生の自主性を重んじることを大切にゼミ活動を行っている。興味のあるテーマを自分自身で見つけられるよう、様々な経験ができる活動を多く取り入れている。また、それぞれの研究や活動の課題、実習での学びを発表する場を多く設け、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を上げていくための工夫をしている。</p> <p>2025 年度は、国際交流イベントにおいて、留学生に向けた日本文化体験を企画、硯や和紙、墨汁など必要な道具をそろえ、自分で好きな漢字を選び、筆で書くことができる書道体験を実施した。書き順などをわかりやすく記したお手本を用紙、留学生ひとりひとりを丁寧に指導した。書いた文字は、墨が乾かなくても気軽に持ち運べるようなフォルダーを手作りし、配付。参加者は、筆で漢字を書くという経験を楽しみ、ブースは多くの留学生で賑わった。</p>
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育現場におけるいじめに関する支援の偏りと現状 <ul style="list-style-type: none"> <li>－なぜ教育現場においていじめの加害者ケアは後回しにされるのか？－</li> </ul> </li> <li>・ 若者の演劇離れの現状 <ul style="list-style-type: none"> <li>－インタビュー調査を通じて</li> </ul> </li> <li>・ 男性保育士の現場での役割とその環境について <ul style="list-style-type: none"> <li>－日本の男性保育士と海外の男性保育士を比較して－</li> </ul> </li> <li>・ 誰でもわかる渋滞学 <ul style="list-style-type: none"> <li>－これであなたも渋滞マスター！－</li> </ul> </li> <li>・ An Analysis on the Effects of Carbohydrate Loading in Bodymaking</li> <li>・ 精神疾患のファッション化とメンタルヘルス・スラングの浸透</li> <li>・ 里親の負担感とその支援について <ul style="list-style-type: none"> <li>－安定した養育のために必要な支援のあり方</li> </ul> </li> <li>・ 外来種問題と人間の関わりについて <ul style="list-style-type: none"> <li>－ミシシippアカミミガメから考える外来種の未来－</li> </ul> </li> </ul>

教育 (つづき)	
2025 年 4 月～2026 年 3 月 (つづき)	
課外活動	<p>短期大学芸能部顧問として軽音部門の学生の音楽活動を支援している。学部と合同で行う活動が多いので、短期大学生と学部生の橋渡しの役割も担っている。</p> <p>芸能部演劇部門の顧問兼系列大学芸能部演劇部門コーチとして、行事運営の支援や学生の演技指導、照明や音響などの舞台技術指導を行っている。2025 年度は、老人ホームでの落語会、朗読会を企画、入所者や職員、地域の方に向けた楽しいイベントを実施した。定期公演では、衝撃的な内容の作品に挑戦、主役の車イスの女性を演じる学生に丁寧な演技指導を行った。樹徳祭公演では、初めて脚本・演出をする学生を指導、県内の演劇関係者も多数訪れ、好評を博した。</p> <p>古典芸能部顧問として、伝統芸能を学ぶ学生の支援にも力を入れている。外国人留学生と交流する機会の少ない短期大学生に、古典芸能を通して外国人留学生と関わる機会を多く設けている。2025 年度樹徳祭では、メモリアルホールで行われた発表会で短大学生とともに外国人留学生の発表をサポートした。</p>
主な教育業績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2025 年 11 月 iCLA (山梨学院大学国際リベラルアーツ学部：通称「International College of Liberal Arts」) 言語学習センターLAC (Language Acquisition Center) と共催で国際交流イベントを企画、卒業演習Ⅱの一環として、書道体験ブースを運営した。</li> <li>また、異文化コミュニケーションの一環として、日本の遊びを体験する活動を企画、折り紙やかかるたなど、日本の伝統的な遊びを留学生や外国人教職員に紹介した。</li> <li>・ 2025 年 11 月 同じく異文化コミュニケーションの一環として、和装文化と紅葉狩り、日本の伝統的な甘味を外国人留学生に紹介するイベント「紅葉さんぽ」に参加し、外国人留学生に着物の素晴らしさや紅葉の美しさを紹介、学生と外国人留学生との交流をサポートした。学生は羊羹やお汁粉など、和のスイーツと抹茶について英語で説明し、たくさんの記念写真をとる留学生に撮影ポイントを案内するなど、様々な異文化交流を体験、参加した学生は、英語で日本文化を紹介することの楽しさと難しさを経験した。</li> <li>・ 2025 年度 8 月 演劇入門の一環として、21-403 大演習室 (ダンス室) にて、朗読劇「はだかの王さま」(アンデルセン原作)、シェイクスピア原作「夏の夜の夢」をアレンジした「恋する若者たち」を上演した。</li> <li>・ 2025 年 8 月 県内演劇関係者が結成したやまなしシアターラボ主催の「初心者のための演劇講座」に講師として招かれ、「戯曲を書いてみよう！」をテーマに、学生から一般社会人まで対象に英国での演劇教育から大学での学生対象の演技指導について語った。</li> </ul>

教育 (つづき)	
2025年4月～2026年3月 (つづき)	
主な教育業績 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年6月 併設する山梨学院大学の国際リベラルアーツ学部 (iCLA) に開設される言語学習センター (LAC) での国際交流イベント「0 Chat Time」に学生有志と参加、留学生とともに海外のお茶文化を経験しながら英会話をしたり、友達作りゲームを楽しみながら、留学生と交流する企画に参加した。参加した学生は、英語に自信はなかったが、ジェスチャーなども使って留学生と楽しく交流できた、と感想を述べた。</li> </ul>
2025年3月以前	
主な教育業績 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年11月 卒業演習Ⅱの一環として、ペープサートで未就学児対象の食育教材「食育ロケット」を制作、保育所で上演した。</li> <li>・2024年11月 異文化コミュニケーションの一環として日本の文化を体験する活動を企画、国際交流イベントにおいて、折り紙や着物体験、福笑いなど、日本文化を留学生や外国人教職員に紹介した。 また、和装文化と紅葉狩りを外国人留学生に紹介するイベント「紅葉さんぽ」に参加し、外国人留学生に着物の素晴らしさや紅葉の美しさを紹介した。</li> <li>・2024年7月～8月 演劇入門の一環として、21-403 大演習室 (ダンス室) にて、子ども向け朗読劇などを上演した。</li> <li>・2024年6月～7月 国際交流イベントに学生有志と参加、留学生とともに新茶と和菓子を味わいながら交流をしたり、日本の伝統的な遊び (早口言葉、トントン相撲、かるた、坊主めくりなど) を留学生と経験した。</li> <li>・2023年度 卒業演習Ⅱの一環として、食物栄養科と合同の高校生対象の食育活動「チームシャンドマール」に参加し、朝食の大切さについて学ぶ教材を制作、パネルシアターで上演した。</li> <li>・2023年度 異文化コミュニケーションの一環として、日本の文化を紹介する活動を企画、国際交流イベントにおいてお手玉やかかるた、福笑いなど、伝統的な日本の遊びを留学生や外国人職員に紹介した。 また、和装文化と紅葉狩りを外国人留学生に紹介するイベント「紅葉さんぽ」に参加し、外国人留学生に和装での立ち居振る舞いや日本の四季の美しさを紹介、外国人留学生と積極的に交流しながら今まで気付くことのなかった日本文化の魅力を再発見した。</li> </ul>

## 教育 (つづき)

2025 年 3 月以前 (つづき)

主な  
教育  
業績  
(つづき)

・2023 年度

メモリアルホールにて実施された専攻科保育専攻 1 年生によるオペレッタ「ぐりとぐら」の演技指導を行った。

演劇入門の一環として、サザンタワー 3 階のレインボープラザ (ラウンジ) にてオカモト國ヒコ作「1 本のロープ」、21-403 大演習室 (ダンス室) にてシェイクスピア原作「夏の夜の夢」をアレンジした「恋する若者たち」を上演した。

・2022 年度

「みんなの地域食堂」において、保育現場などで栄養士として働いている方々に、子どもを対象とした食育活動「食育ロケット」を紹介した。

・2021 年度

「山梨の食材で、寒さに負けないからだづくり」において、小学生を対象とした朗読劇「はだかの王さま」を上演した。

・2021 年度

山梨学院幼稚園アルテア子ども館にて、未就学児を対象としたクリスマス朗読劇「くるみわり人形」を上演した。

・2020 年度

卒業演習Ⅱの一環として、ゼミ生がクリスマス・トリップという異文化紹介イベントを実施した。

・2019 年度

卒業演習Ⅰでゼミ生が山梨学院小学校トワイライトスクールにおいて朗読会を行った。

・2019 年度

卒業演習Ⅰで、ゼミ生が国際交流イベントにおいて日本文化を紹介、「着物の文化体験講座」と「折り紙体験講座」を行った。また、食物栄養科の日本食紹介のサポートを行った。

・2017 年度

卒業演習Ⅱでゼミ生が外国人留学生に向けた日本昔話の人形劇を上演した。

・2017 年度

卒業演習Ⅰでゼミ生が山梨学院総合図書館において幼稚園児に向けた絵本の読み聞かせイベントを行った。

・2006 年度～2016 年度

保育科オペレッタ上演の脚本、演出指導を行った。2013 年度には、舞台制作の様子がテレビ局の取材を受け、放送された。

研究		
2025年4月～2026年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） テレビ番組を活用した英語授業の展開（第3報）－紀行番組をリスニング素材として使用した授業実践をもとに－ （単著）	2026年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第46巻
2025年3月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 英語を「聞く力」「話す力」の向上を目指した授業実践（第2報）－英語特有の発音「lとrの違い」に注目して－ （単著）	2022年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第42巻
（学術論文） コロナ禍における子ども食堂の課題－文献調査から見えてくる状況と問題点－ （共著）	2022年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第42巻
（学術論文） 小学校英語における「聞く」・「話す」ことから「読む」・「書く」ことへの展開－複数の領域をつなげる“コミュニケーション”に注目して－ （単著）	2021年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻
（学術論文） 英語を「聞く力」「話す力」の向上を目指した授業実践（第1報）－英語特有の発音“th[θ]”獲得の試み－ （単著）	2021年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻
（学術論文） 小学校の英語教育に関する教育方法論的考察－A小学校の授業観察と教諭インタビューから－ （共著）	2021年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻
（学術論文） テレビ番組を活用した英語授業の展開 第2報－食育番組をリスニング素材として使用した授業実践をもとに－ （単著）	2019年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第39巻

研究 (つづき)		
2025年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) テレビ番組を活用した英語授業の展開 第1報 ー料理番組をリスニング素材として使用した授業実践をもとにー (単著)	2018年 2月	山梨学院短期大学研究紀要 第38巻
(その他：研究発表) 観客としての子どもの反応についての一考察 (単独)	2016年 5月	日本保育学会 第69回大会
(その他：研究発表) 子どものための舞台制作ー脚本作りを通じた学びー (単独)	2012年 5月	日本保育学会 第65回大会
(その他：翻訳) 「日本料理と山梨県の郷土料理」 (単独)	2010年 3月	山梨学院短期大学食物栄養科

社会貢献
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等
2025年4月～2026年3月
・FM甲府子育て支援番組ディレクター（1997～2024）
2025年3月以前（主なもの）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学コンソーシアムやまなし主催「やまなし留学生スピーチコンテスト」 実行委員（2011～2023）</li> <li>・山梨県子どもの夏休み期間の生活リズム改善作戦ー県産食材を使った食育と食支援による地域活性化ー（地域連携事業支援プロジェクト）に参加（2020～2022）</li> <li>・FM甲府生涯学習の時間 聞き手（2009～2020）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター主催（2021より山梨学院総合図書館主催）「日本文化ワークショップ」コーディネーター（2018～2022）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター主催「やまなし学研究」 コーディネーター（2018）</li> <li>・山梨学院大学文化交流センター・山梨学院生涯学習センター主催「日本語スピーチコンテスト」審査員（2016）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター 紀要編集委員（2015～2020）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター主催「ワイン講座」 コーディネーター（2011～2020）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター主催「英語ワークショップ」 コーディネーター（2011～2020）</li> <li>・山梨学院生涯学習センター・山梨学院国際交流センター主催「英語スピーチコンテスト」審査員（2010～2020）</li> <li>・FM甲府ラジオ番組「生涯学習の時間」 聞き手（2009～2020）</li> <li>・大学コンソーシアムやまなし主催「山梨県大学ガイダンスセミナー」 実施委員（2017～2019）</li> <li>・大学コンソーシアムやまなし主催「学生イニシアティブ事業」 審査員（2016～2019）</li> <li>・大学コンソーシアムやまなし・山梨学院生涯学習センター主催「県民コミュニティーカレッジ」コーディネーター（2013）</li> </ul>
受賞 ※個人、所属団体
<ul style="list-style-type: none"> <li>・山梨学院学生チャレンジ制度採択（食物栄養科有志・竹中ゼミナール「チームシャンドマルス」）（2023）</li> <li>・山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（学友会執行部）（2022）</li> <li>・山梨学院学生チャレンジ制度採択（竹中ゼミナール「七タクイズチャレンジ」）（2022）</li> <li>・山梨学院学生チャレンジ制度採択（学友会執行部「おはなしかい」）（2022）</li> <li>・山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2020）</li> <li>・山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2020）</li> <li>・山梨学院学生チャレンジ制度採択（鈴木・竹中ゼミナール有志）（2019）</li> <li>・農林水産省 第3回食育活動表彰「教育関係者・事業者部門消費安全局長賞（2019）</li> <li>・山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2018）</li> </ul>